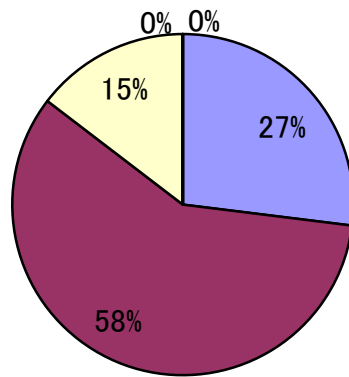


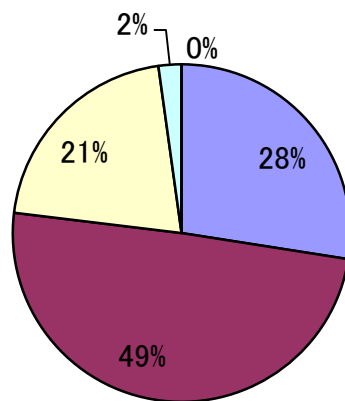
### A-2:教材・テキストの内容



- よく理解できた
- だいたい理解できた
- ふつう
- あまり理解できなかった
- まったく理解できなかった

平均点: 1.1

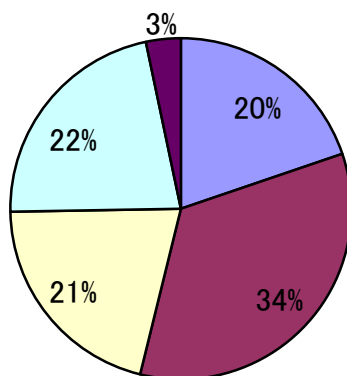
### A-3:プログラム構成



- 適切である
- 大体適切
- ふつう
- あまり適切でない
- 適切でない

平均点: 1.0

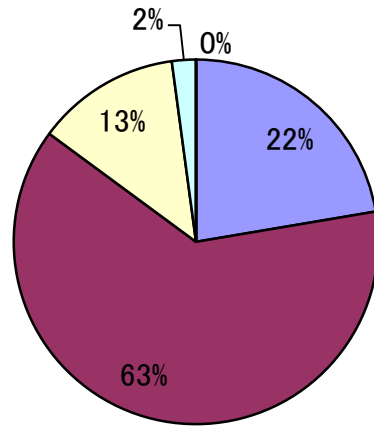
### A-4:時間配分



- 適切だった
- 大体適切
- ふつう
- あまり適切でなかった
- 適切でなかった

平均点: 0.4

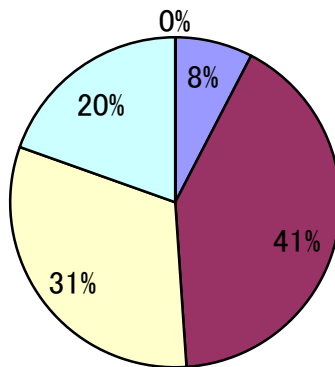
A-5:講演・発表



- 大変分かりやすかった
- やや分かりやすかった
- ふつう
- ややわかりにくかった
- まったくわかりにくかった

平均点:1.1

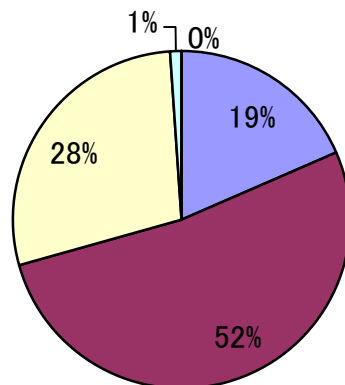
A-6:研修設備・会場



- とても快適だった
- ほぼ快適だった
- ふつう
- あまり快適でなかった
- まったく快適でなかった

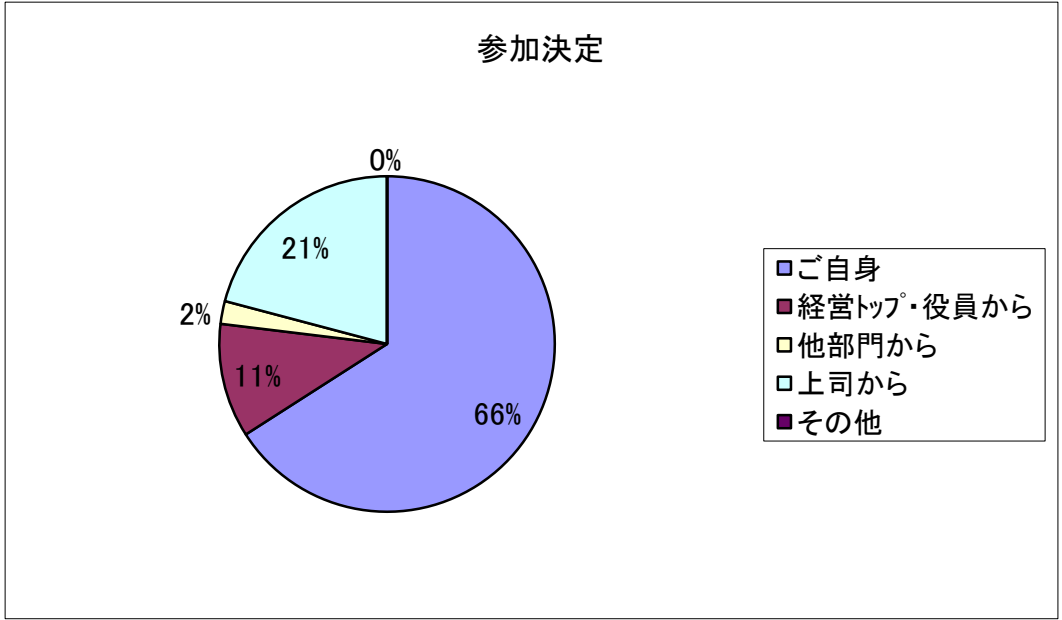
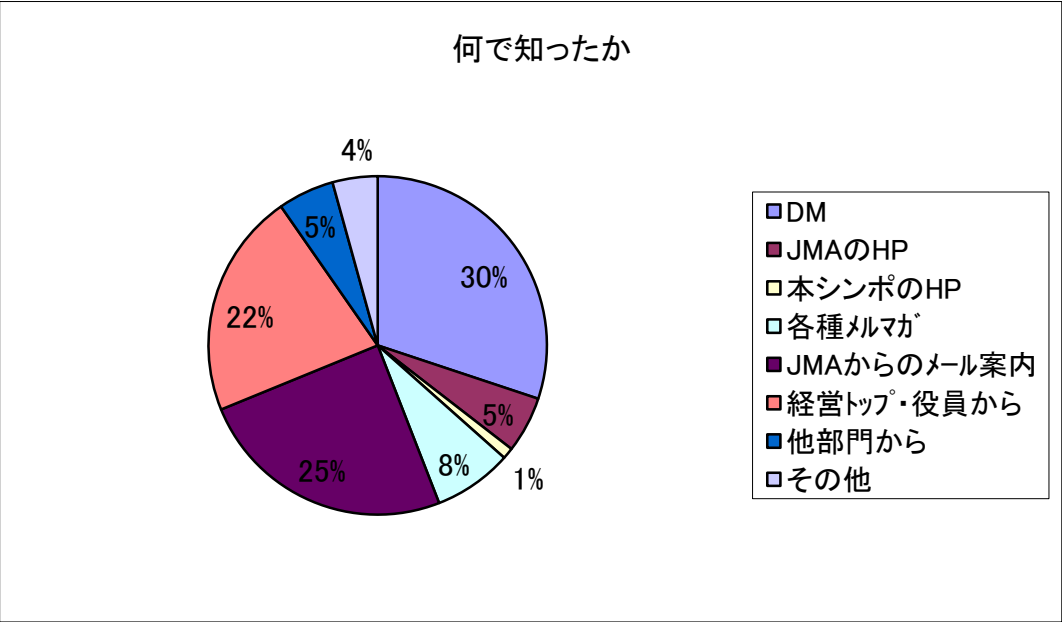
平均点:0.4

A-7:事務局対応



- 適切だった
- 大体適切
- ふつう
- あまり適切でなかった
- 適切でなかった

平均点:0.9



平均点に関しては、向等・複数回答をそのまま有効データとして、n=94で算出

参加者アンケート・ご意見①

具体的なご意見・ご感想・お気づきの点	
	内容は盛りだくさんで興味深い。会場の音響にやや難あり
	企業として今後のあるべき姿の参考になりました。
	企業人の全てにとって必要です。
	横文字・略称が多く、分かりにくい面も有る。スピーカーの先生達は常識と思っているが会社に戻って経営者に話すときに訳していかなければならない。
	企業として生物多様性に関して取り組む必要性和その取り組み方の指針がすこしわかった。
	今まで環境はできれば避けて通りたいが、止むを得ず取り組んでいるという企業がほとんどであり、生物多様性も、廻りを見ながらやっいていこうと考えている会社がほとんどと思われる。これを打ち破るにはどうしたらよいか。その課題へのヒントが与えられるかと思い参加した。
	1つの事例をどうやってはじめ、どうしてうまくいったのかその過程を知りたかった
	「生物多様性」に対する考え方・とらえ方が、講師により大きく異なる。あるいは「生物多様性」の意味を理解していないのでは?と思われる場合もあった。生態系サービスからの搾取から継続的な保全への転換が根本的な精神のはず。もう少し、講師の質をえらんで欲しい。
	様々な観点からの多様性への考え方が分かりとても参考になりました。
	生物多様性がビジネスの課題(リスクとチャンス)であることを痛感させられた。
	各社の具体事例を聞くことができ参考になった
	1つ1つの内容はある程度理解できたが、生物多様性をこれから始める場合、どのような事から始めて、行けば良いか、もう少し知りたかった
	当社でも検討に入っているため、他社の動向、世の中の状況などを情報収集する良い機会となった。
	企業の取組みの難しさが無理にビジネスチャンスに結びつけていく様な印象をうけた。一部時間が短く、少し絞るべきと思った
	社内で生物多様性に関する社員教育用資料を作成しています。有馬さんの資料に「本業」と「社会貢献活動」の取組みの図が、イメージ把握に役立ちました。これを参考にして社内資料にも応用していこうと、考えています。
	本日の多彩な内容の講演、企業の取組みをお聞きし、生物を直接扱わない企業も生物多様性保全に何らかの取組みをする必要性を理解できた。
	もう少し企業の推進上の苦労話等を具体的に聞かせていただければと思いました。
	やはり、朝10時から夕方5時過ぎまで、ひたすら講演を聞く(一方的に)と言うのは疲れる。企画・検討するとあれもこれもということになったのであろうが…。総じて、前半の話は面白かったが、後半はイマイチだった。
	本日の講演の中で、日立化成の河野様からESR実施に際した具体例・ヒントをご説明いただいた事が、とても参考になりました。
	具体的な取組事例が多く理解しやすかった
	国際的な課題であるが日本人の国民性と導入のアプローチ方法に若干の問題がある様に感じる
	「自然保護」「環境保全」等が相当以前から経営課題に盛り込まれているにも関わらず、また、突然の如く「生物多様性」の言葉が出現した背景、思惑、企業の取り組み状況等全体像を理解するのに大いに役立った。特に「経営へのインパクト」はどう対応していく上で知っておきたい内容であった。
	講師の方々がすばらしく、おもしろかった
	特にヨーロッパの動きから見た必要性を新に理解した
	今日のセミナーを通じて「これまで、生物多様性と云った観点から企業と言うより、その名の通り生物、食物等の個別的な取組みを行っているが」、生物多様性と企業と云った係わりが非常に分りやすく説明され参考となった。これが現場(企業)で生かせたらいいと思うが、まだまだ勉強が必要である程むずかしい事だと思う
	様々な立場が網羅されており、企業の取組み事例も豊富でよかったです。
	会場が寒かった(特に午前中)。時間的な制約でしかたないのかもしれないが、講師の皆様の話がかけ足になったのは残念
	体系的に生物多様性の流れが理解でき、今後弊社での方向性を考えるヒントになった

参加者アンケート・ご意見②

「生物多様性と企業経営」に関して、問題点・課題	
	当社の取り組みはまだ模索段階。本日の内容を参考に今後検討していきたい
	部品メーカーとしての取り組み方関わり。CO2削減のように目標値をどう定めたらよいか?事例があれば欲しい
	事業特性上、生物多様性にとりくみにくい運輸業、公共交通などの実例も聴講する機会があれば幸いです
	原材料調達において従来からの化石資源からサステナブルな原料へのシフトにおける生物多様性尊重の姿勢
	自社の事業活動について生物多様性の評価をしたい
	一般的に「生物多様性」にかかわりが薄いと思われる企業が行うべき活動は何か?金融や商社、動植物を取りあつかうメーカーは、具体的な取り組みがしやすい。それ以外のメーカーにとって、ボランティア的な(本業と直接関係のない)活動意外に何ができるのか?本日の講演からは評価方法の検討までが実態と思える
	自社の調達基準や生物多様性への依存と影響について現状と課題を再整理してみたい
	生態系サービス評価(ESR)など、今後企業が自社の取組み評価を把握、分析するための評価指標が世の中でまだ確立されていない。各社自社での基準作りの段階。一般的な評価手法の確立これまで生物多様性について調査・研究してこなかったし、担当もおいてなかった。どの様に進めるのがいいのか、コンサルを受けたい。
	機器メーカーとしての関わりは?
	早急に方針策定をしていく
	ビジネスにダメージを受けるリスクの一面と、可能性を見出す一面、両面あると思う。どのように折り合いをつけるべきか、今後の考察が必要である。
	事業所を生物多様性と言う視点からレベル評価できる指標が欲しい(できるだけ簡単なチェックシートのようなもので、レベルを数値化できるもの)。マスコミ、日本能率協会、各企業がCOP10を終えても、これだけの熱気を生物多様性に持つことができるか
	どこの会社も手探りの状態であり、統一した評価方法又は推進手法が必要だと思えます。
	弊社の製品は多くの工場生産設備として使用されますが、本日のシンポジウムに参加させていただいて、更に低動力での機械の開発をと強く感じました。
	やはりわかりづらい、よくわからない
	疑問に感じたのは、「環境」に関わることでありながら、「経営戦略」の領域になってきていると感じるのだが、対応している部署が「総務」「環境」であるのは何故か?
	生物多様性と企業といった関係をいかに仲良く暮らしていくかが大きな問題であると考えます。企業は利益をあげなければなり立たない。その為には生物多様性へ大きな影響を与えてしまう。企業の特徴により関わり方が違うが、大小に関わらず真剣に考える時期だと考えさせられます。
	人によって早口で聞き取れない、声が小さい等、音についても考えてほしい。
	社員が「生物多様性」をいかに理解し、ビジネスにつなげていくかを、どの様な手段で方法で行うかが課題と考えている
	まだまだ自社の経営とのかかわり方が薄く、これからの対応になる
	会社として具体的にどのように取り組んでいくのか、イメージがつけにくい
	何が当社に直接的に関係するのがわかりづらい
「CSR・環境経営の実践」に関連して取り組むべき方策など	
	商品(技術)で見せる、活動で見せる
	政策待ちではなく企業として問題を正面から受け止め、企業としてどうしていくかを定める。
	社会のサステナビリティに向け、個人としての教訓を会社の強みといかにかにだしていくか?モノづくりを通して実施していく
	自治体や製造業のCSRは他セミナー、研究会でもあたりまえのように取りあげられている。非製造業をいかにCSRとしてとりこむか…難しいテーマだがチャレンジしてほしい
	CSR・環境経営に関しては、高いレベルで全社的に取り組んでいると自負しておりますが、更に強化して行きます。
	会社としての方針が明確となっていない。幹部社員の意識が低い。